

平成二十六年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。□は表面、□は裏面へも続けて書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

□

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問題

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(加藤尚武、『環境倫理学のすすめ』、丸善株式会社、平成三年、
三〇―三九ページ、抜粋・一部改変)

問一 本文の論旨を四〇〇字以内でまとめなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二〇一二年のロンドン五輪のバドミントン女子ダブルスで、決勝トーナメントに進出した中国、韓国、インドネシアの4ペアが無気力試合を行ったとして世界バドミントン連盟(BWF)から失格処分を受けた。「無気力試合」と判断されたのは、当該ペアが試合中、サーブスを故意にネットに当てる、レシーブをしないなどの行為を繰り返し、自らを敗退に追い込もうとしたことによる。失格になった4ペアは、すでに1次リーグ突破が決まっており、決勝トーナメントで同国の代表チーム同士や強豪チームと当たるのを避けることが狙いであったと考えられる。

問一 オリンピックには多くの個人や団体が有形、無形に関わっている。こうした様々な立場を想定しながら、この失格処分のは是非について八〇〇字以内で論じなさい。

平成二十六年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科の琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の、歴史・民俗・文学・言語への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻への入学希望者には、当該地域の文化の成り立ち及びそうした文化を生み出す社会の仕組みに対する深い関心と理解力が求められる。□一は、資源の配分に関する世代間の不公平について論じたものである。未来世代への資源の継承を含めた現代の問題点に関する文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。□二は、議論が分かれる論題に対して、様々な立場の意見を斟酌し、問題点を整理することを通して、受験生の思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。